

指定管理者評価表(外部評価シート)

1. 基本事項

		評価対象期間	令和3年4月1日 ~ 令和7年3月31日		
施設の概要		指定管理の状況			
名称	老人福祉センター可児川苑	指定名称	公益社団法人可児市シルバー人材センター		
所在地	可児市坂戸765番地	指定所在地	可児市今渡682番地1		
設置目的	可児市は昭和50年代から急激な人口増加の時代を迎え、当時は高齢化率が約7%でしたが、来るべき高齢社会を見越すとともに、高齢者に対する健康増進、教養の向上、生きがい支援などを目的として、老人福祉法の規定による老人福祉センターを設置しました。	指定管理期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日(2期目)		
		選定種別	公募・非公募	利用料金制	採用(一部・完全)・不採用
供用開始年月	平成3年4月	業務内容	(1)施設の利用に関すること (2)利用料金の徴収に関すること (3)施設の維持管理に関すること (4)施設の設置目的のために必要な単独事業を行うこと (5)その他必要な管理業務		
施設所管部署	福祉部 高齢福祉課				

2. 施設の運営状況

① 利用状況

項目	R3年度(1年目)	R4年度(2年目)	R5年度(3年目)	R6年度(4年目)
開館日数	217 日	241 日	242 日	243 日
施設利用者数	13,262 人	19,064 人	20,877 人	21,623 人
1日平均利用者数	61.1 人	79.1 人	86.3 人	89.0 人

② 自主事業実施状況

項目	R3年度(1年目)	R4年度(2年目)	R5年度(3年目)	R6年度(4年目)
開催回数	58 回	145 回	164 回	150 回
参加人数	875 人	2,805 人	3,416 人	3,752 人

③ 主な自主事業の内容

実施年度	事業の名称等	参加人数
令和6年度	ヨガ教室	795 人
令和6年度	まちかど運動教室	749 人
令和6年度	太極拳教室	627 人
令和6年度	サロン可児川	602 人
令和6年度	カタクリカフェ	281 人
令和6年度	ペン習字教室	205 人
令和6年度	かな書道教室	184 人

3. 収支状況

① 収入

単位:円

項目	R3年度(1年目)	R4年度(2年目)	R5年度(3年目)	R6年度(4年目)	
	実績	実績	実績	計画	実績
指定管理料	29,600,000	29,600,000	29,600,000	29,600,000	29,177,265
負担金	0	760,000	0	0	1,020,000
その他	22,136	6,347	0	35,000	2,190
収入計 A	29,622,136	30,366,347	29,600,000	29,635,000	30,199,455

② 支出

単位:円

項目	R3年度(1年目)	R4年度(2年目)	R5年度(3年目)	R6年度(4年目)	
	実績	実績	実績	計画	実績
人件費	2,275,416	2,383,444	2,524,423	2,435,000	2,552,341
管理費	22,835,143	27,377,455	26,980,872	25,646,000	25,573,911
事業費	373,000	1,121,106	1,019,000	1,034,000	990,000
事務費	182,382	198,170	214,971	300,000	280,696
その他	110,000	110,000	207,553	220,000	205,960
支出計 B	25,775,941	31,190,175	30,946,819	29,635,000	29,602,908
収支 A-B	3,846,195	-823,828	-1,346,819	0	596,547

4. 評価結果

区分	評価項目	評価内容	一次評価(施設所管課)		二次評価(選定評価委員会)	
			評価理由等	評価	評価理由等	評価
業務の履行	事業計画書及び協定書に掲げる業務の実施状況	事業計画書や協定書に掲げる業務が確実に実行されているか	事業計画書や協定書に掲げる内容が確実に実行されている	B	・1日80人、年間2万人の目標を設定・達成している。 ・洋式トイレ改修、防犯カメラ設置など必要な設備を随時整備・更新できている。 ・シルバー人材センターの雇用に基づき職員の働きやすさや、体力に応じた就労への配慮がされている。 ・緊急時の専門職の対応や家族への連絡などが適切に行われている。	B
	人員配置及び職員研修の状況	必要な人員が確保され、職員研修も実施されているか	必要な人員が確保されており、苑内での研修も実施されている	B		
	文書・帳簿の管理保存状況	管理業務に関する文書・帳簿は適切に整理保管されているか	文書・帳簿は、適切に整理保管されている	B		
	施設設備・備品の保守管理の実施状況	管理施設の設備・備品の保守管理状況は適切か	定期的実施され、不具合発生時の対応も適正におこなわれている	B		
	緊急時の対応方法	緊急時の対応マニュアルや事後の対応への備えができていますか	マニュアル整備と職員への徹底を確認。防災面も対応できている	B		
	利用者の推移	利用者が特別な事情がないにもかかわらず前年度に比べ減少していないか	R5利用者:20,877人(前年度比+1,813人/+9.5%) R6利用者:21,623人(前年度比+746人/+3.5%)	B		
サービスの水準	サービス向上及び経営改善に関する独自の取り組み	サービス向上等に向けた独自の取り組みは実施されているか	R5自主事業:10教室で164回開催3,416人(前年度比+611人)参加 R6自主事業:11教室で150回開催3,752人(前年度比+336人)参加	A	・利用者のニーズをくみ取り、新しい講座を毎年1講座増やすことを目標に挙げ、実施している。 ・PRする地域をある程度絞って行うことで、効率よく利用者に広報している。 ・アンケートでは職員の仕事への姿勢や施設の清潔感などで好感が持たれている。	B
	利用者満足度調査における施設満足度	利用者の施設満足度は高いか	施設全体が清潔に保たれていたり、職員が親切にしてくれていたり好評いただいている。	B		
	PR・情報提供の実施状況	様々な方法により、積極的なPRや情報提供が行われているか	チラシ等作成、苑内掲示、一部地区へのパンフレット回覧等実施されている	B		
	苦情処理の状況	苦情に関する帳簿が作成され、内容は職員に周知され、適切な対応がなされているか	苦情はなし。有事に備えた対応もできている	B		
収支状況	指定管理施設の経理事務の状況	指定管理施設に関する経理事務は適正に行われているか	人件費や電気料金の高騰に対応するため、経費節減に努め指定管理料内で運営できるようにしている	B	・スマイリングルームの設置や設備の整理について、状況に応じて対応ができており、令和6年度には黒字化しており、財務状況は健全である。	B
	指定管理者の財務状況	指定管理者の財務状況は適正か	適正に実施されている	B		
総合評価			各種講座・教室を開催でき、地域高齢者の賑わいにつながっています。利用者は、新型コロナの影響も弱まり増加傾向にある状態です。施設利用者の体調不良案件などについても、的確で迅速な処置ができる体制が整っています。施設の老朽化により不具合が発生することも多いが、適切に対応、報告できており、問題が大きくなる前に未然に対処できています。 また、令和6年10月には同施設内にスマイリングルームが開室されました。工事期間中においても、また開室後も、相互の事業において調整しながら運営ができています。	B	「所見」欄に記載	B

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を増やすための目標を挙げ、自主事業などで工夫し、効果を上げている点が評価できる。 ・スマイリングルーム通所者や、保育園児童との交流など、相互に利がある取り組みができていところが評価できる。 ・シルバー人材センターが担っていることで、人員配配置が適切に行われており、高齢者の就労ニーズに則しながら運営ができています。 ・令和5年度に洋式トイレ改修、令和6年度に防犯カメラ設置、エアコン移設工事など、適宜施設維持・改善ができています。修繕費用が収支に今後も大きく影響する可能性があるため、注視するべきである。
----	---

5. 参考(評価基準)

① 区分別評価基準

◆業務の履行

評価	内 容
A	適切に実施されており、より効果的に業務が実施されている
B	適切に実施されており、特に改善等を要する事項はない
C	おおむね適切に実施されているが、その一部に改善を必要とする事項が見受けられる
D	要求事項が実施されていないか、実施されていても適切ではないため大幅な改善が必要である

◆サービスの水準

評価	内 容
A	サービス水準の向上が認められ、独自の工夫も多く見受けられる
B	サービス水準はおおむね維持されている
C	サービス水準の一部に低下が見られ、サービス向上の努力が必要である
D	サービス水準が低下していると認められるため、サービス向上に向けた大幅な改善が必要である

◆収支状況

評価	内 容
A	収支は計画に比べ向上が見られる。財務状況も良好である
B	収支はおおむね計画どおりと認められる。財務状況は良好である
C	収支のいずれか、又は両方が計画を達成していない。財務状況は良好である
D	収支のいずれも計画を達成していない。財務状況も良好とはいえない

② 総合評価基準(評価指標の①②のいずれかの基準を採用し、評価を決定する)

評価	内 容
A	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%以上である
	② 適切に実施されており、評価できる点が多く、改善が必要と思われる重要事項もない
B	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%未満である
	② おおむね適切に実施されており、評価できる点もあるが、軽微な事項を含め改善が必要な事項がある
C	① A・Bに該当せず、Dの割合が30%以下である
	② 適切に実施されている部分もあるが、改善が必要と思われる重要な事項もある
D	① 上記のいずれの評価にも該当しない
	② 改善が必要と思われる重要な事項が多く、早急な改善が必要である